

■黒潮盃（SII）アラカルト（過去全 55 回の分析）

- ※第 1 回（昭和 42 年）から第 29 回（平成 7 年）までは 1,800m で実施
- ※第 30 回（平成 8 年）から第 35 回（平成 13 年）までは 1,700m で実施
- ※第 36 回（平成 14 年）は 1,690m で実施
- ※第 37 回（平成 15 年）は 1,790m で実施
- ※第 1 回（昭和 42 年）から第 36 回（平成 14 年）までは南関東所属馬限定の競走として実施
- ※第 37 回（平成 15 年）は東日本地区交流競走として実施
- ※第 38 回（平成 16 年）から地方競馬全国交流競走として実施
- ※第 1 回（昭和 42 年）から第 32 回（平成 10 年）までは 4 月に実施
- ※記録は令和 4 年 8 月 3 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は 8 割

単勝 1 番人気馬は 25 勝、2 着 11 回、3 着 8 回で、3 着内率が 80.0%、単勝 2 番人気馬は 10 勝、2 着 8 回、3 着 10 回で、3 着内率が 50.9%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、3 着内率が 29.1%となっている。単勝 2 番人気馬の成績も決して悪くはないが、単勝 1 番人気馬が圧倒的に強いレースだ。

■ 7 割近い確率で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 55 回のうち 38 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 17 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 4 回ある。

■ 牝馬は 5 勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第 25 回（平成 3 年）のカールホワイト、第 26 回（平成 4 年）のカシワズプリンセス、第 43 回（平成 21 年）のツクシヒメ、第 46 回（平成 24 年）のアスカリーブル、第 50 回（平成 28 年）のミスミランダート、これまでに 5 頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第 37 回（平成 15 年）でナイキゲルマンが 2 着となったものの、まだ優勝例はない。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8勝の的場文男騎手が単独トップ。5勝の高橋三郎騎手が単独2位、2勝の石崎隆之騎手、今野忠成騎手、早田秀治騎手、山口勲騎手が3位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「3」

調教師別の勝利数を見ると、3勝の秋谷元次調教師、岡部猛調教師、佐藤賢二調教師がトップタイ。2勝の阪本一栄調教師が単独4位となっている。

■ 内寄りの枠に入った馬の優勝例が多い

枠番別勝利数を見ると、2枠、3枠、6枠（各9勝）がトップタイ。1枠（7勝）が単独4位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、3番（12勝）が単独トップ。2番（7勝）が単独2位、12番（6勝）が単独3位である。なお、未勝利の馬番は16番だけだ。